

2022年4月21日

平素より大変お世話になっております。

横浜国立大学『都市と芸術の応答体2022』開講のお知らせのニュースリリースを送付させていただきます。

貴媒体にてご取材、情報掲載などご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

お問合せ：山本さくら（広報）rau.ynu@gmail.com



令和4年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業

都市空間に創造的に応答していく視点を持ったアートマネジメント人材育成プログラム

「都市と芸術の応答体2022」開始とメンバー募集のお知らせ

横浜国立大学の藤原徹平（建築家）・平倉圭（芸術学研究者）が
ゲストアーティストに三宅唱（映画監督）を迎え、
オンラインプログラム第三期を開始。

横浜国立大学は、都市空間に創造的に応答していく視点を持ったアートマネジメント人材育成プログラム「都市と芸術の応答体2022」を、5月にスタートします。

文化庁「令和4年度大学における文化芸術推進事業」の採択を受け運営する本事業は、3年目を迎えました。

今年度のテーマは「土木と詩／土地と身体／ロードムービー」です。

土地、身体と、都市と芸術についてこれまで思考してきましたが、「ロードムービー」という言葉を加えて、移動を通じた時間と空間の経験から、都市に生まれる芸術について思考します。試作を通じて相互の応答が連なる議論や、1年目2年目を受け継いで思考することなど、RAUという学びの集団のあり方も踏まえたテーマです。

ごあいさつ

2020年からスタートした『都市と芸術の応答体』の試みを、2022年も継続していきます。

私たちの生きる都市は、家族像の変化、経済危機、移民、多国籍化、都心への一極集中、市街地の空洞化、大災害、パンデミックなど、その様相は21世紀に入り変化しつづけています。社会を拘束する文脈が大きく、強く、速くなりつづけていて、都市とは何なのかをとらえることすら簡単ではありません。

そのような都市に生まれる芸術とはどのようなものでしょうか。私たちはここで芸術を、美術館や劇場のなかにあるものだけでなく、人を触発する形を制作する技術とその技術の産物として広く捉えてみたいと思います。都市を深く観察し、応答し、あるいは都市の存在の基底に触れるような知的探求を通じて、都市そのものを深く理解し、芸術を為す感覚を拡張していくような地点にたどり着きたいと考えています。

そのために私たちは『都市と芸術の応答体』という場を立ち上げました。

この場では、私たちに気づきを与えてくれるゲストアーティストたちとの深い対話を軸に、都市と芸術に関わる新しい論点を探っていきます。集団的なリサーチを行うかもしれませんし、実験的なアートプロジェクトをつくることになるかもしれません。

1年目は「土木と詩」というコンセプトを議論の中から生み出し、都市を映像で捉えていく理論と方法を構築していきました。2年目は、「土地と身体」というコンセプトから、都市を映像とテキストで捉えていく理論と方法を探っていきました。3年目の今年は集大成として今までの言葉に「ロードムービー」という言葉を加えて、土地の持つ物語を立ち上げる方法を試行していきたいと考えています。

引き続き多様な専門性のバックグラウンドの方の参加を期待します。

本プロジェクトでは、オンラインという状況を活かし、世界の多様な場所から参加ができる場としたいと考えています。互いの対話から、言葉を鍛え、眼を鍛え、さまざまな芸術の制作実験をしていく、集団的試行の場、学びの共同体を引き続き育てあげていきたいと思っています。

藤原徹平・平倉圭

プレイベント【都市と芸術の応答体2022に向けて】のご案内

テーマである「土木と詩／土地と身体／ロードムービー」を通じて考えたいことや、活動の展望をディレクターの藤原徹平、平倉圭がトークします。チャット機能を用いて、視聴者の方からの質疑にも随時お答えいたします。

日時 2022年4月27日（水）19:00-20:30

登壇者 ディレクター 藤原徹平 平倉圭

プログラムマネージャー 染谷有紀 山川陸



参加申込

<https://rau2022-pre-event.peatix.com>

配信方法

Zoomによる配信。

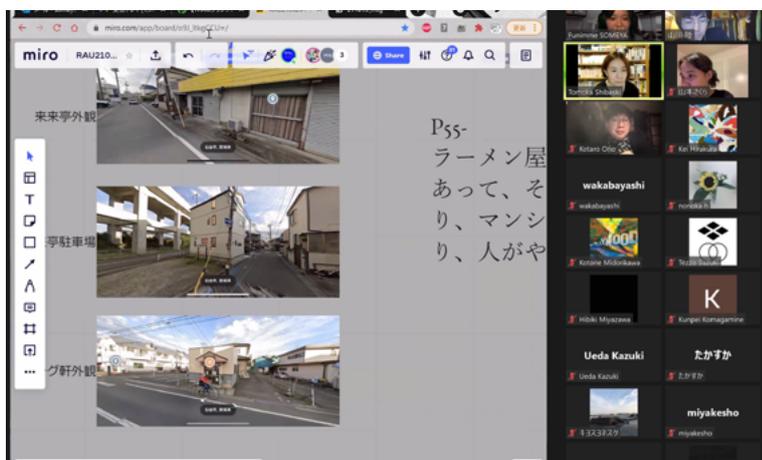
Peatixで予約後に配布されるURLで入室して頂きます。

「都市と芸術の応答体2022」概要

下記4つのプログラムを通じて、都市と芸術のより深い関係を試行していくメンバーを、年齢や経験や活動拠点や所属を問わず幅広く募集します。

活動1 レクチャー&企画制作「都市活動と芸術」 ゲスト 多様なゲスト講師

今年度のテーマを深めるために、都市における活動に対してユニークな視座と技術を持った複数のゲスト講師を招き、新たな芸術のあり方を検討します。メンバーは、レクチャーを通じて各人の日常生活の活動や場に対する新しい視点を獲得し、作品の企画制作を行います。



活動2 ワークショップ「物語としての土地」 ゲストアーティスト 三宅唱

映画監督・三宅唱氏の指導のもと「物語としての土地」というキーワードを設定し映像撮影・演出・編集のワークショップを行います。

ワークショップは、各地から参加するメンバーがそれぞれの周囲に広がる土地で制作し、オンラインのミーティングでそのときどきの試作を持ち寄ります。

土地の事物や人に対して行う演出や、土地そのものが人に対してもたらず演出的な効果を観察・思考しながら物語の可能性を検討します。土地の持つ多層性と、その上での活動を総体として捉える芸術の方法論を議論し、実践します。



活動3 試行と応答の場「RAU試1」

活動②において制作された映像作品を基点に、思考を深めるためのワークショップや空間的に作品を展開する試行を、オンラインとオンサイトが複合した形式で行います。成果発表の展示ではなく、作品創造のプロセスをメンバー内に開く機会として設定しています。一年間のプログラム構成の中で、中頃となる9月を予定。



活動4 試行と応答の場「RAU試2」

活動①から③を行った上で、そのプロセス及び作品を介した応答的なやり取りの起きる場「RAU試」そのものを発表します。

芸術に転換された都市活動をめぐる議論や思考を、作品やシンポジウムなど複合的な形で発表することで、本事業が一貫して問うてきた「都市と芸術」の応答を、公に開き、同時代のさまざまな実践者に開いていきます。



スケジュール

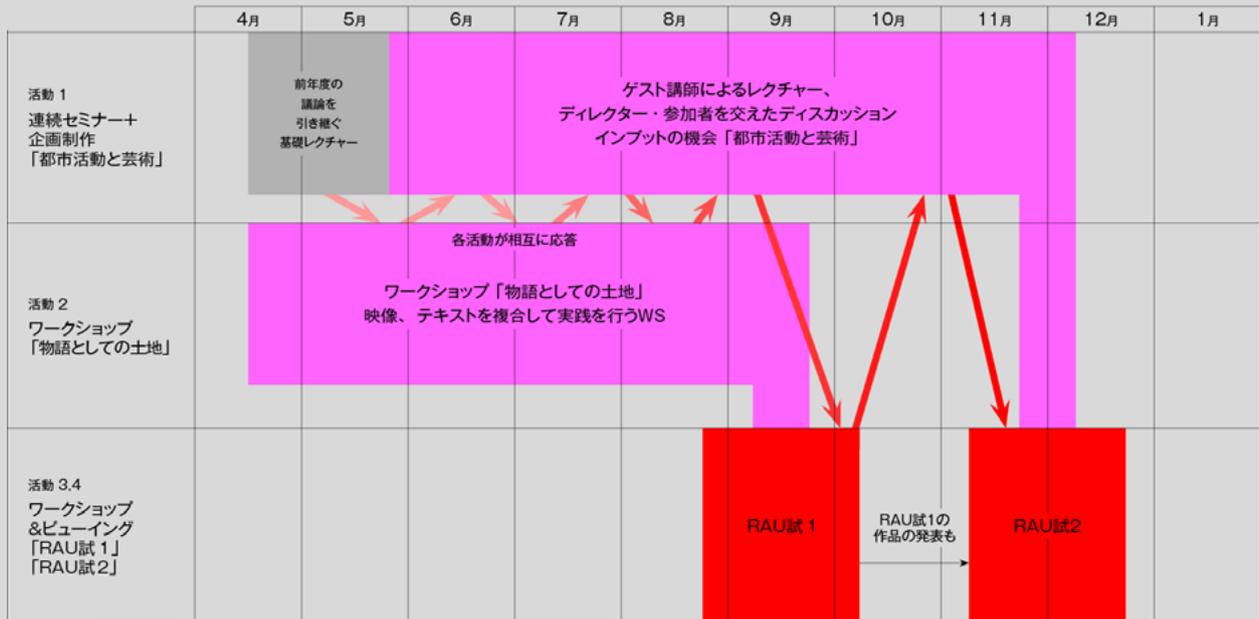
※ 5/11から、プログラム終了時まで隔週水曜日の19:00-21:00が活動日です。

下記スケジュールの詳細や、変更がある場合は、メンバー向けの連絡ツールにて随時告知致します。

※5、6月のスケジュールは右記です。5/11, 5/18, 5/25, 6/8, 6/22

4/25 (水) メンバー募集開始 **5/6 (金) 23:59** 募集締切

5/9 (月) 選抜結果連絡 **5/11 (水)** 活動開始



対象者 都市と芸術のより深い関係を試行していくメンバーを、年齢や経験や活動拠点や所属を問わず幅広く募集します。

文化芸術・文化行政・まちづくりの分野で活動する方

実践を通してアートマネジメントを学びたい方

分野を超えて芸術を考えたい**学生、研究者、社会人**

作品をつくることに意欲のある人（作品制作経験の有無は問いません）

参加方法 zoomやmiroを利用したオンライン配信 ※オンサイトでのWSも検討中

参加費 無料

定員 30名程度（人数が多い場合は、選抜を実施します）

募集期間 4/25 (水) 17:00から 5/6 (金) 23:59まで ※5/9中に選抜結果をメール通知いたします

申込方法 下記の項目を申込フォームへ記入してお送りください。なお、(4)の回答は提出形式はPDFに限ります。

<https://forms.gle/TyDtwy6wq5jpTWHR8>

- 1 氏名・年齢・職業・性別（任意）
- 2 活動がわかるウェブページなどのリンク（任意）
- 3 参加可能な頻度や日程（通年で参加可能、〇月頃は参加できない、等）
- 4 AかBのいずれかの問いを選択し、「写真+500字以内」または「1000字以内のテキスト」をPDFデータにまとめてご提出ください。
 - A 「都市と芸術」の関係についてあなたが考えることを自由に書いてください。
 - B 「土木と詩/土地と身体/ロードムービー」というキーワードについてあなたが考えることを自由に書いてください。



ディレクター 略歴



藤原徹平 FUJIWARA Teppei

建築家 1975年横浜生まれ。横浜国立大学大学院Y-GSA 准教授。フジワラ テッペイアーキテクトラボ主宰。一般社団法人ドリフターズインターナショナル理事。横浜国立大学大学院修士課程修了。建築や都市のデザイン、芸術と都市の関係を研究・実践している。主な作品に「クルックフィールズ」、「那須塩原市まちなか交流センター」、「京都市立芸術大学移転設計」、「ヨコハマトリエンナーレ2017会場デザイン」、「リボンアートフェスティバル2017会場デザイン」など。受賞に横浜文化賞 文化・芸術奨励賞 日本建築学会作品選集新人賞など。



平倉圭 HIRAKURA Kei

芸術学（近現代美術、パフォーマンス、映画） 1977年横浜生まれ。横浜国立大学大学院Y-GSC 准教授。東京大学大学院学際情報学府博士課程修了。博士（学際情報学）。芸術の制作プロセスにはたらく物体化された思考を研究している。最近は絵画論と動物論。著書に『かたちは思考する—芸術制作の分析（東京大学出版会、2019年）、『ゴダールの方法』（インスクリプト、第二回表象文化論学会賞受賞）、『オーバー・ザ・シネマ 映画「超」討議』（共著、フィルムアート社）ほか。作品に《テキスト、山、準-部分》、《彫刻術としてのダンス》（神村恵・津田道子との共同制作）ほか。

ゲストアーティスト 略歴



三宅唱 MIYAKE Sho

映画監督 1984年北海道生まれ。一橋大学社会学部卒業、映画美学校フィクションコース初等科修了。主な長編映画に『ワイルドツアー』（2018）、『きみの鳥はうたえる』（18）など。最新作はNetflixオリジナルドラマ『呪怨：呪いの家』（20）。他に鈴木了二との共同監督作『物質試行58：A RETURN OF BRUNO TAUT 2016』（16）やビデオインスタレーション作品として「ワールドツアー」（18/山口情報芸術センター[YCAM]との共作）、「July 32,Sapporo Park」（19/札幌文化芸術交流センターSCARTSとの共作）などを発表している。主な長編映画に『ワイルドツアー』（19）、『きみの鳥はうたえる』（18）など。最新作は『ケイコ 目を澄ませて』（22）。

主催 国立大学法人 横浜国立大学
助成 令和4年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業
事業統括 藤原徹平（建築家 | 横浜国立大学 Y-GSA 准教授）
事務局 『都市と芸術の応答体2022』事務局
住所 〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5 建築学棟4階
メール rau.ynu@gmail.com（担当：染谷・山川）

HP rau-ynu.com twitter @RAU_YNU

ディレクター 藤原徹平 平倉圭

プログラムマネージャー 染谷有紀 山川陸

プレス・広報 山本さくら

グラフィックデザイン 鈴木哲生

